

# TG/DTA(熱重量測定装置) 操作方法

① 本体、パソコン、ワークステーション、雰囲気制御装置の電源を入れる。

② パソコン上で、ソフト立ち上げ。  
・「TA-60WS 収集:モニタ」ウインドウを起動  
・「操作」バーからDTG-60Hをクリック



図2 試料室



図1 システム全体

③ 本体前面(図1参照)の「Open/Close」のボタンを押し、試料室を開ける。

④ 左にリファレンス、右にサンプル用の空の試料セルをのせる(図2参照)。

\*試料セルには、アルミニウム(600°Cまで)、白金(1500°Cまで:白金と合金化するような材料は適さない)、アルミナ(1500°Cまで)がある。

⑤ 本体前面(図1参照)の「Open/Close」のボタンを押し、試料室を閉める。

⑥ パソコン上(図4参照)で「装置→オートゼロ(TGA)→オートゼロ」を設定し、風袋重量を引く(ゼロに)。

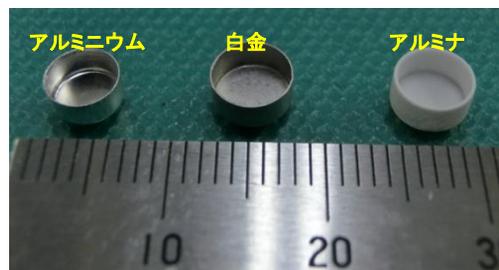


図3 試料セルの種類

⑦ 本体前面(図1参照)の「Open/Close」のボタンを押し、試料室を開け、右:試料用の試料セルを取り出し、試料を入れ、試料用セルの位置に取り付ける。

スタートP

⑧ 本体前面「Open/Close」のボタンを押し、本体を閉じる。

⑨ 雰囲気制御装置でガス流量を調整する。

\*パソコン上でガスを制御する場合は、装置側ではCloseにしておく。

⑩ パソコン上で「測定パラメーター」を設定する。

・温度プログラム

・ファイル情報

Ex.)昇温速度:10°C/min、目標温度:1000°C

以上が設定できたら、「OK」を選択する。

Ex.)サンプル名、試料重量

⑪ パソコン上(図4参照)で「スタート P」をクリックすると、測定が開始する。(画面が青からピンクになる)

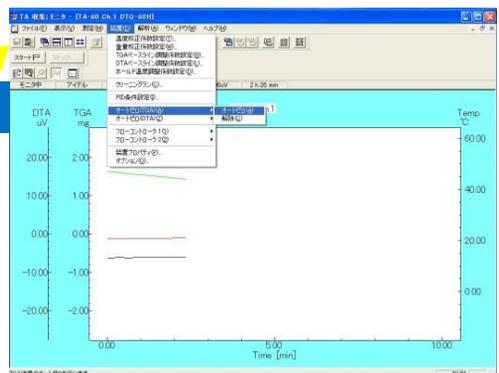


図4 収集:モニタ

## ⑫ 測定完了

\*目標温度まで達したら、自動的にデータはパソコン内に保存される。

## ⑬ 測定データの解析

・「TA60」のソフトを起動し、必要なデータ(ピーク温度など)を解析する。(図5参照)

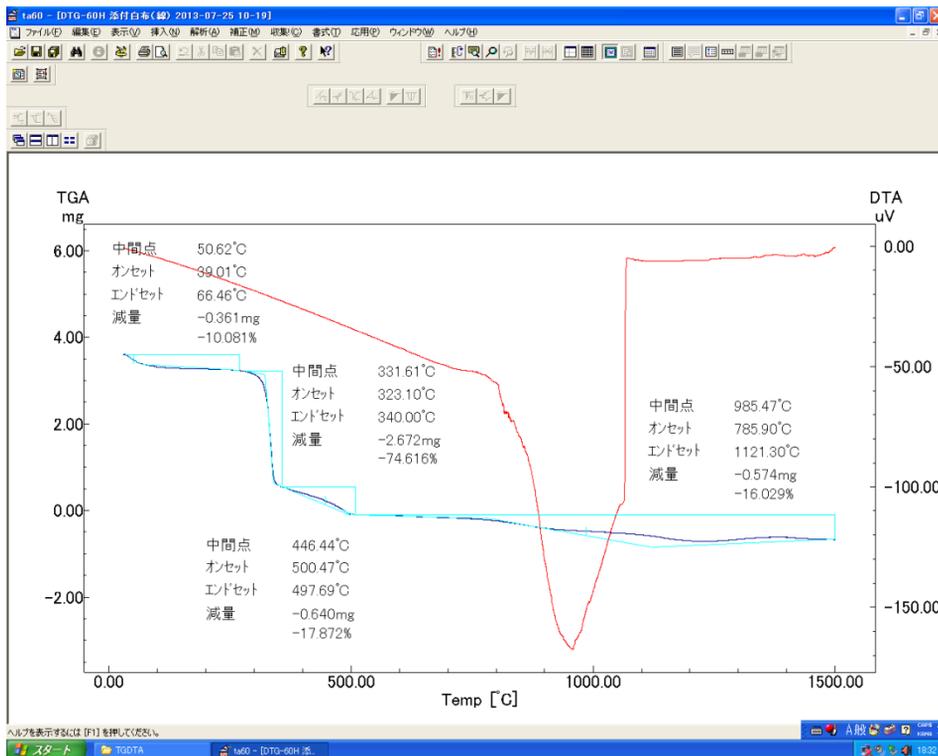


図5 測定データ解析

## ⑭ 本体が十分冷えてから、本体、パソコン、ワークステーション、雰囲気制御装置の電源を切る。

注1: 窒素ガスを使う場合は、終了時にガスの閉め忘れにご注意ください。

注2: アルミナ、白金の試料セルなど消耗品は、別途自己負担となります。